

平成29年度 学校関係者評価書

南アルプス市立落合小学校

○ 第1回学校関係者評価委員会の経過

1 日時 平成29年9月15日(金) 午後7時00分～8時30分

2 出席者 学校教育支援者

| | | | |
|---------|-------|----------|-------|
| 区長会長 | 浅野 勝 | 主任児童委員 | 武内 節子 |
| P T A会長 | 矢崎 健吾 | P T A副会長 | 川窪 裕 |
| 学校長 | 笹本 仁 | 教頭 | 矢崎 健 |
| 教務主任 | 石川 明子 | | |

3 提案内容

- (1) 学校運営の方針
- (2) 児童の様子
- (3) 学校評価結果を活かした2学期学校運営

4 協議内容

(1) 学校評価全体について

- ・ 職員、児童、保護者ともに肯定的な回答が多く、総合的に見て良好である。特に、教職員の自己評価の結果がすべての項目において90%を超える肯定的意見となっている。教職員全員が課題を共通認識し、同じ方向を向いて教育活動や学校運営にあたっている結果だと思う。また、それぞれの項目について、課題や改善策が示されているので、これをもとに協力してさらにより良い学校運営、教育活動にあたってほしい。
- ・ 子どもたちのアンケート結果を見ると「学校が楽しい」という答えが93%となっている。落合小学校の教育の表れであり、先生方の指導のおかげだと思う。この結果を踏まえ、子どもたちにとってさらに良い学校であり続けてほしいし、先生方にも努力して行ってほしい。

(2) 学習面について

- ・ 今年度も学力向上のために授業はもちろんのこと、「家庭学習の取組」「自学」「チャレンジルーム」、算数や国語のチャレンジテスト、家読などに取り組み、生きる力を支える基礎的な学力が向上しつつあることが分かった。また、児童、保護者ともに「授業が分かるか」との問いに、90%を超える肯定的な結果が出ている。基礎的な部分は高まってきているので、今後は思考力、判断力、表現力も高められるような工夫をして行ってほしい。
- ・ きめ細かい学習指導をしても理解が不十分な子どもはいるだろう。その子たちが「あまりわからない」と答えている。そのように意思表示できることは大切なことで、先生と子どもの関係が近い、信頼関係があるから言えるのだろう。しかし、理解が不十分な子をどうフォローしていくかは今後の課題である。
- ・ 学習面における基礎的な面が高まったり、授業が分かると思う児童や保護者が増えているのは、学校でのきめ細かい指導や保護者の協力があつてのことである。学校と保護者が連携し、学力を高める工夫をして行ってほしい。
- ・ 以前から本校の課題であった「授業中の発言」については昨年度より10ポイントほど結果が上昇している。言語活動の充実を取り入れた学び合う授業づくりの取組の成果だという説明があつた。昨年度よりは向上しているが、他の項目に比べると低いので、校内研究などを通してさらに授業改善をし、伸ばしてほしい。

- ・ これから成長していくと考えが変わるかもしれないが、本地区は自然が豊かだからという理由で、落合地区を好きだと答える子どもが多かった。地域の教材が豊富で、それを教えてくれる人材も豊富である。このことを生かし、将来地域を支える人材となってくれることを望む。

(3) 生活面について

- ・ あいさつについて、子どもたちの自己評価と保護者の子どもに対する評価に差がある。学校を訪問した時、田畑で農作業をしている時など、子どもたちから自発的にあいさつをしてくれる。子どもたちの評価はあながち間違っていないのではないか。子どもにだけあいさつを期待するのではなく、大人からも積極的に声をかけるなど、お互いにあいさつができるとうよい。
- ・ 本校は縦割りの交流が盛んに行われている。小さい学校でこじんまりしているうえに、名前をみんなで覚える工夫もしている。名前をお互いに知り合うのはいいことである。子どもたちの話を聞くと、休み時間などに他学年の子たちとも触れ合っているということである。全校児童が仲よくできるのは大変素晴らしいことである。
- ・ 今後、体育館が完成し、グラウンドが広くなり、環境が整っていく。このことは、子どもたちの励みになっていくことだと思う。この機を生かして子どもたちがさらに頑張れるように後押しをしていってほしい。今の6年生が卒業するときには、新体育館で卒業式を迎えさせてあげたい。

(4) 携帯・スマホ、ゲームについて

- ・本地区は自然は多いが、ゲームに熱中する子も多い。しかし、以前新聞で見かけたが、全くしない子より時間を決めてやり、ゲームと学習のけじめをつけている子の方が学力も伸びているという記事があった。メリハリを付けられるような指導の必要性を感じる。
- ・ スマホや携帯を通して、友達を傷つけてしまうこともある。学校ではその使い方等について教育を語る会でスマホ教室も行ったが、保護者も子どもたちにきちんと指導していってほしい。

(5) その他

- ・ 子どもたちは学校での活動を通して他学年ともつながりを持っている。保護者も知り合って連携していくことは、学校との関係、子どもへの指導上大切なことであると思う。保護者同士がもう少しつながれる方法を探っていくことも考えていきたい。
- ・ ここに住んでいる人、子どもが自分の地区の学校に通えるのは大切なことである。小さい地区ではあるが、学校や保育所は絶対に必要である。保育所でも地域と連携し所長を中心によく育ててもらっている。その子たちが学校に来て、その成果が生かされている。